



再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局有料道路課
担当課長名：金井 道夫

事業名 首都高速中央環状新宿線	事業区分	都市高速道路	事業主体	首都高速道路公団
起終点 自：目黒区青葉台四丁目 至：板橋区熊野町				延長 11.0km
事業概要 中央環状線は、「首都圏三環状道路」の中で東京都区部の主要拠点を結び、放射方向の道路と組み合わせて首都高速道路全体のバランスのよい利用を可能とし、首都機能の維持・増進を図る総延長約47kmの路線である。このうち西側区間を形成する本路線は、都心から半径約8kmに位置し、3号渋谷線（目黒区）から4号新宿線（新宿区）を経て5号池袋線（板橋区）に至る路線である。				
H2年度事業化		H2年度都市計画決定 (H3,5,11,16年度変更)		H2年度用地着手
H2年度工事着手				
全体事業費	約10,243億円	事業進捗率	68%	供用済延長 0.0km
計画交通量	49,000～80,000台/日			
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.3 (残事業) 6.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 3,015/8,477億円 事業費：2,424/7,886億円 維持管理費：591/591億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 19,343/19,343億円 走行時間短縮便益：18,168/18,168億円 走行費用減少便益：837/837億円 交通事故減少便益：338/338億円	基準年 平成16年
事業の効果等 円滑なモビリティの確保（並行区間等の年間渋滞損失時間および削減率が大きいことが見込まれる。） 地球環境の保全（対象道路の整備により自動車からのCO2排出量の削減が見込まれる） 生活環境の改善・保全（並行区間等における自動車からのNO2、SPM排出削減率が大きいことが見込まれる） 他19項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見 平成18年度供用をめざし、首都高速道路公団と連携・協力する。（東京都「東京構想2000」より）				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 中央環状線王子線の供用（平成14年度）、中央環状品川線の都市計画決定（平成16年11月）により、中央環状線に着実な進捗が見られる。また平成13年8月に都市再生プロジェクトに指定されている。				
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成16年度末（見込み）の進捗率は全体で68%（工事60%、用地（面積比）99%）となっている。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成18年度に全線供用予定である。				
施設の構造や工法の変更等 シールドトンネルの二次覆工の省略及び発生土の無償処分地の確保等によりコスト削減を図っている。				
対応方針 事業継続 事業を推進し、早期整備を図る。				
対応方針の決定理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図				
				

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。